

1. 研究活動

タングステン同位体比が語る初期地球内部の分化とダイナミクス	2012. 6. 1	岩波書店, 科学, vol.82, No.6	タングステン同位体比による初期地球の内部構造に関する研究を解説した。605～607頁。 共著者:川上紳一・東條文治
日本新産のダイダイゴケ属地衣類コナキクバダイダイゴケ <i>Caloplaca decipiens</i> (ダイダイゴケ科)	2012. 8. 31	Lichenology, vol.11, no.1	日本で報告がなかったコナキクバダイダイゴケを岐阜県内において発見し記載した。17～20頁。共著者:川上紳一・東條文治・原田浩・岡本達哉

岐阜県産の地衣類 (5) 岐阜県新産のキビノサラゴケ Gyarecta kibiensis (サラゴケ科)	2012. 8. 31	Lichenology, vol.11, no.1	キビノサラゴケを岐阜県内で発見し記載した。31～34頁。共著者:川上紳一・斉藤由夏・日比野洋也・東條文治・原田浩
原生代末の酸素増加とスノーボール・アースマリアン氷河時代直後に始まったことを示す地球化学的な証拠	2013. 2. 1	岩波書店, 科学, vol.83, No.2	地球表層の酸化還元状態を探る地球化学的な指標について新しいデータが示された。143～145頁。共著者:東條文治・川上紳一
日本最古の石博物館標本と最新地球史研究成果の融合による新たな博物館教育の試み	2013. 3	岐阜大学教育学部研究報告 (自然科学) 第37巻	日本最古の石博物館との地域連携事業についての概要報告。67-74頁。共著者:川上紳一・東條文治・大野照文・竹中諒
アンモナイト化石を用いた課題解決型授業の実践のための化石産地と標本の確保について	2013. 3. 29	名古屋芸術大学研究紀要, 第34巻	フランスとモロッコでの調査から理科教材に適したアンモナイト化石の産地と標本について検討した。185-192頁。共著者:東條文治・竹中諒・川上紳一
小学校理科で博物館の活用を実践できる教員の養成を目指して	2013. 3. 30	名古屋芸術大学人間発達研究所年報, 第2巻	小学校理科で博物館を活用する人材育成について対談を行った。1-6頁。共著者:東條文治・安井謙介
フィールドワークを取り入れた自然科学の学習	2013. 3. 30	名古屋芸術大学人間発達研究所年報, 第2巻	野外での天体観測や動植物図鑑製作を取り入れた授業についての取り組みの紹介。83-86頁。単著
アンモナイト化石を用いた課題探求型理科学習の展開	2012. 6. 16	日本地質学会中部支部2012年年会 (岐阜)	アンモナイト化石を用いた学習プログラムの実践。共同発表者:竹中諒・東條文治・川上紳一・山中敦子
科学教育プログラムとしての地衣類調査と「進化する地衣類図鑑」	2012. 7. 15	日本地衣学会第11回大会 (筑波)	地衣類図鑑の開発と調査での新発見について。共同発表者:川上紳一・東條文治・原田浩
岐阜県養老公園における地衣類調査:大垣東高校理数科課題研究	2012. 7. 15	日本地衣学会第11回大会 (筑波)	地衣類調査を用いた課題研究実践。共同発表者:日比野洋也・川上紳一・東條文治・原田浩
2011～2013年度科学研究助成。研究課題「フランス産ジュラ紀アンモナイト化石の分類学的研究と教材開発」			フランス及びモロッコで産するジュラ紀アンモナイトについて分類学的な検討を行う。さらに化石の同定・示準化石を用いた時代決定などの理科教材として教育プログラムを開発し、実践を行う。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 ■有 □無

3. 学会等および社会における主な活動